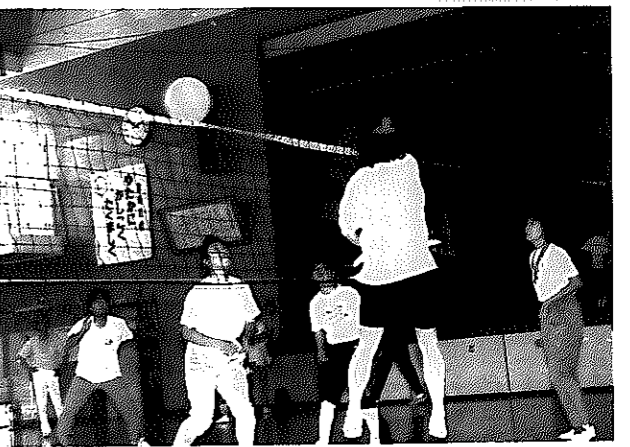
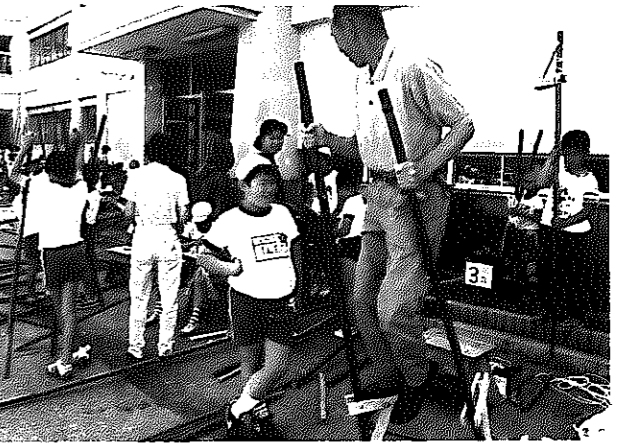


身近な情報をお寄せください(企画調整課広報係☎373-2111㊟333)

地域の老人クラブやPTAが協力し、六月十八日、大鷲小学校で竹馬作りが行われました。同小学校では昨年からの「いきいきスクール」の指定を受け、心豊かで創造性に富む人間の育成を目標に事業を進めています。竹馬作りはその一環として行われたものです。慣れない手つきで竹を切り、おじいさんたちの手を借りながら竹馬が完成。早速乗ってみますが、思うように歩けません。見かねたおじいさんが「どれ、貸してみたい」と、上手に歩いてみせる姿も。何度か練習するうちに歩けるようになった子供たち。「背が高くなっただけだ」と大喜びでした。

小鷲大 竹馬作り



小鷲大 PTA 親善スポーツ大会

子供たちの声援を受けて

七月五日、白根小学校体育館で先生、父兄の親善スポーツ大会が行われ、約三百五十人が参加しました。これは同校PTAが白根小学校創立百二十周年を記念して企画したものです。バレーボールなど三種目が行われました。チーム編成は、各学年ごとの選抜。ほとんどが即席のチームながら、徐々にチームワークも良くなり、あちこちで大熱戦を展開。子供たちの声援を受けると、一層気合も充実。珍プレー、好プレーが続出しました。お昼休みには大縄跳び大会も行われ、父兄、先生が一つになってジャンプ。一層親睦を深めていました。

六月二十五日、白根市雇用フォーラムが開かれ、市内の企業二十四社と高校、短大など十七校の就職担当者が参加しました。これは就職希望者の大都市志向が根強い中、できるだけ地元企業に就職をと、毎年開催しているもの。新規卒業者の求人・求職動向について、率直な意見が交換されました。「給料、休日、人間関係などが会社選択の大きな指標」、「先輩の口コミや、父母が信頼を寄せる会社であるかどうかが決める手になる」と学校側。企業側からは「求人は大卒を重点的に。高卒には厳しい」という見通しが示され、厳しい景気の状態を伺わせていました。

ぜひ、地元企業に就職を雇用フォーラム



現代の食事情を講演 坂本広子講演会

七月六日、JAドリームホールで、料理研究家の坂本広子さんの講演会が開かれ、農家の主婦など約百人の女性が参加しました。NHK「きょうの料理」ほか、いろいろな場で料理の講師を務める坂本さん。「米を洗えと言ったら洗剤で洗う人がいる。せっかくだが良い素材をそろえても料理の仕方を知らないのが今の人たち」と話します。「良い素材だけではなかなか消費者は買わない。食べ物で村おこしをするなら、料理方法を添えて売ることが大切」とも。講演後は簡単な手料理を実演。「手軽でおいしい。早速、家で試してみます」と参加者は話していました。

六月二十五日、二十六日、白根消防署職員のマラソン大会が行われました。コースはカルチャーセンターの周りを一周する三キロと五キロの二コース。六十八人の職員が参加し、日ごろ鍛えた健脚を競いました。強い日差しが照り付ける、午後一時三十分スタート。気温も上昇し、タイムはあまり伸びないかと思われましたが、さすが体が資本の消防士たち。ふだんの練習以上に力走し、好タイムを続出。火事場のばか力を発揮し、本番に強いところを見せました。記録上位者は、県消防職員駅伝大会へ挑戦。上位進出が期待されます。

日ごろ鍛えた健脚を競う 消防署職員マラソン大会

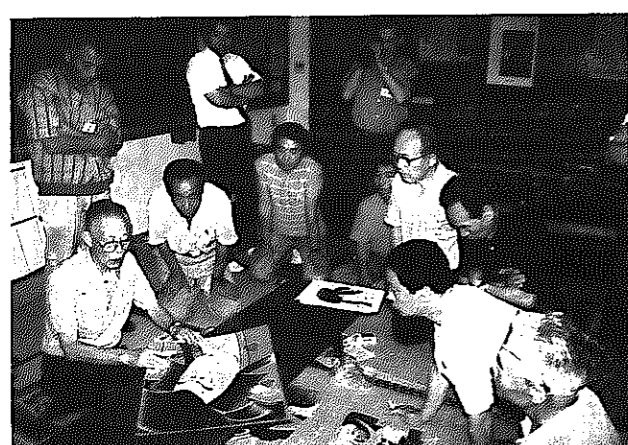


県警音楽隊と合同演奏 北中学校吹奏楽部

七月一日、北中学校体育館で、交通安全の講話と、県警音楽隊と同校吹奏楽部の合同演奏が行われました。これは生徒たちに交通安全の意識を高めてもらおうと同校PTAが企画したものです。同校の生徒は、全員が自転車通学。交通安全に遭う危険が大きいため、学校全体で無事故を目標としています。白根警察署の小林交通課長の講話を聞いた後、全校生徒、先生、参観の父兄が見守る中、合同演奏開始。緊張した面持ちで演奏に臨んだ生徒たちでしたが、いざ演奏が始まると、初めての共演ながら息もぴったり。調和の取れた素晴らしい演奏を披露しました。

今年度開設された市民文化講座の「風絵」が高い人気を呼んでいます。この講座は風絵師の渡辺虎之助さんが「自分の持つ技術を少しでも多くの人に伝えたい」と申し出て実現したものです。「風助さんから直々に指導してもらえ」とあって一言も漏らすまいと、ビデオ録画しながらの受講者も。熱意あふれる指導に「われわれだけでこんなに良い話を聞くのはもったいない」という声も上がります。主催する中央公民館では「風は白根を代表する郷土文化。渡辺さんの持つ豊富な知識と卓越した技術が、多くの人に継承されれば」と期待を寄せています。

伝統文化の技を伝授 市民文化講座 風



迅速、安全。救助はお任せ レスキュー隊 東北大会出場

消防レスキュー隊が技術を競う消防救助技術東北地区大会が七月二十二日、仙台市で開催され、市消防本部レスキュー隊員がロープブリッジ救出部門に出場しました。この種目は建物内の被災者を、隣の建物からロープで救助する想定で行われるもの。四人一組で速さ、安全性、正確さを競います。出場したのは小林悟さん、高橋正敏さん、川田隆康さん、鈴木進一さん。七月六日の県大会で準優勝し、同大会に駒を進めました。大会は日ごろの訓練の成果を見る絶好の機会。東北大会は大きな目標だっただけに「ぜひ来年も」と気持ち新たにしています。